



# 動物レスキュー通信

2015年10月 第29号 (平成27年10月1日発行)

発行元 一般財団法人 国連世界動物救済支援機構 詩月財団

詩月(しづく) : 詩月財団 理事長  
愛玩動物飼養管理士 一級  
お問い合わせ : sizuku.foundation@gmail.com

## 大切なワンちゃんをしつけと

### 注意すべき点



第12号にも取り上げましたが、ワンちゃんのしつけは必要不可欠で、きちんとしつけをする事によって殺処分数減少に必ずつながると考えています。その理由として、飼い主さんがワンちゃんを手放さなくてはならなくなる際「ワンちゃんの「問題行動」を理由としてあげる場合があります。問題行動とは「吠える」「引っ張る」「咬む」など、ワンちゃんにとっては恐怖心や警戒心、ストレスなど、飼い主に色々な事を伝えるために自然にとっている行動でも、飼い主さんにとっては「この子は言う事をきかない」「など」とも迷惑で、「問題行動」と感じてしまうからです。しかし、ただ迷惑で問題ある行動だと捉えるのではなく、ワンちゃんをしつける事は飼い主さん自身も成長する事だと考えワンちゃんと共に飼い主さんもしっかりと楽しんで勉強していく事が大切です。

### しつけの際に大切な事

しつけはタイミングがとても大切だと言われています。ワンちゃんが「オスワリ」などの指示に答えているのに、飼い主さんが号令をかけることや、褒めるタイミングを間違えると、犬は指示を正しく覚えることができなくなってしまうのです。ワンちゃんに正解が伝わるように号令や褒めるタ

イミングを間違えないようにしましょう。1. しつけは食前に行う。オスワリなどの練習の時によく使われる方法が、出来たご褒美としておやつを与えること。これは食事の前に練習する方がやる気も効果もアップします。食後だとお腹がいっぱいの状態で練習することになるので、おやつに反応しなくなってしまうことがあります。そして集中力もタウシがちなので、必ず食前に行ってください。2. すぐにほめる。褒めると言っているのは犬に正解を教えるということですが、褒めるタイミングは早くても遅くてもダメです。例えばお座りを教える時座る前に褒めるのも、一旦座って立ち上がった後に褒めるのも間違いです。この間違いは犬に勘違いをさせてしまうことになってしまいます。必ず指示に答えられたらその正しい姿勢のうちに褒めてあげてください。3. 成功してから終了。しつけの練習は必ず毎回成功した状態で止めることが大切です。失敗の状態でしつけの練習を辞めることになってしまうと、犬が嫌なイメージを持つてしまうことがあるからです。逆に成功した状態で止めると犬は褒められてやるめることになるので次も頑張ろうと思うことができるのです。もし、何度やっても成功できない場合は、もつと犬が好きなおやつに変えたり、その犬ができる簡単なことをやらせてから成功してから止めるようにしてください。散歩中にもゲーム感覚で

できるしつけを取り入れてみるのはいかがでしょうか。楽しみながらしつけをすることが出来ます。1. 散歩中に犬が好き勝手に歩きまわり飼い主さんの横について歩かない犬の場合。フライングをかけて犬を感かせながら歩くと効果があります。例えば直進すると思わせた突然曲がってみる、あるいは歩いてる途中で突然後ろ方向に引き返してみるのもいいでしょう。その際にワンちゃんがきちんと飼い主さんの横に付くことができた、なら思いっきり褒めてご褒美をあげましょう。2. 興奮する癖のある犬の場合。曲がり角に来たら「オスワリ」をするというルールを決めて、散歩の間、すべての角でオスワリをさせてみましょう。オスワリをすることでワンちゃんは曲がり角が来るたびにお尻を地面につけることになり、動きが止まり、興奮しやすいため、次第に落ち着きを取り戻していきます。落ち着いた状態で歩けば事故防止にもつながり、そのうち飼い主さんが「オスワリ」と声をかけなくても曲がり角でワンちゃんが自らすすんでオスワリするようになってくるでしょう。3. 引っ張り癖のあるワンちゃんの場合、ワンちゃんが飼い主さんを引っ張って歩き出すと飼い主さんはストップします。その際に飼い主さんはリードをしつかりと持ち、ワンちゃんがいくらか引っ張っても、動かずにじっと我慢してください。そしてワンちゃんが引っ張るのをやめてリードが緩んでくる、もしくはワンちゃんが飼い主さんの方を見たら成功です。そうすることによってワンちゃんは引っ張ったら前に進めない」ということに気づくので、次第に引っ張り癖がなくなってきました。楽しみながらしつけをし、共に成長する事で不幸なワンちゃんが少なくなる事を願います。(詩月)